

水産業競争力強化緊急施設整備事業事後評価報告書

・岩手県農林水産部水産振興課
 ・岩手県沿岸広域振興局水産部
 宮古水産振興センター

目的	岩手県宮古市重茂地区において、一区第 123 号音部前漁場のうち、音部前岸漁場に養殖施設 42 台（幹縄 200m×1 本）を整備し、生産数量を増産することで、シェア拡大による新規顧客の増加、流出顧客の減少、単価の向上等による地域水産業の競争力を強化するものである。			
目標	養殖わかめ、養殖こんぶの生産数量を現状から幹縄 1 m 当たり 16.8 kg 増大させ、競争力の強化を図る。	岩手県-001		
事業実施主体	重茂漁業協同組合			
実施地区	岩手県宮古市重茂地先・一区第 1 2 3 号音部前岸漁場内			
実施期間及び目標年度	実施期間	目標年度		
	令和 4 年度	令和 6 年度		
助成金額	28,314,000 円			
事業計画の内容	養殖施設：幹縄 200m×1 本組×42 台 ／幹縄総 m 数 8,400 m 設置工事			
評価	取組の目標 (KPI)	漁業所得（岩手県宮古市重茂地区における養殖漁業、採介藻漁業の水揚）の向上		
	基準年	（平成 26 年度～30 年度の 5 ヶ年平均）1,696 千円		
	現状値	（令和 6 年度末時点）1,528 千円	増加率	-10%
	目標値	（令和 5 年度末）1,934 千円	増加率	14%
	成果目標	養殖施設の整備による幹縄 1 m 当たりの養殖わかめ、養殖こんぶの生産量の増産を図る。		
	現状値	（令和 6 年度末時点）19.5 kg/m		
	目標値	（令和 6 年度末）41.4 kg/m		
	(1) 現状値の説明	令和 6 年 2 月に発生した強風・波浪により、養殖わかめ、養殖こんぶの原藻の損傷や落下が起きたことに加え、養殖こんぶは海水温の上昇によるスソ枯れの進行が早く、大幅な減産となったため、成果目標は達成されなかった。		
	(2) 地域への経済効果	養殖漁業生産量の回復・向上、漁業担い手の確保・育成、水産物の付加価値向上及び漁業所得の向上に寄与している。		
	(3) 所見	自然災害や高水温の影響で、養殖わかめ、養殖こんぶの幹縄 1 m 当たりの生産量は目標値の 47.1%となった。一方で、養殖漁業者が品質向上に努めた結果、単価が向上したことなどにより、6 年度の水揚金額は目標値の 75.2%となった。		
(4) 評価機関の意見等				
今後の改善方法等に関する分析	<ul style="list-style-type: none"> ・成長が早い種苗の普及や品質の高い種苗の供給により、安定生産を促進する。 ・漁協は海水温、栄養塩等の情報を配信し、種苗の品質管理の徹底に取り組む。 以上により、生産の安定と品質の向上、生産量の増加に取り組み、漁家経営の収益拡大を図る。			

別表（第4の5の別記様式第10-4号関係）

水産業競争力強化緊急施設整備事業事後評価報告書

・岩手県農林水産部水産振興課
 ・岩手県沿岸広域振興局水産部
 宮古水産振興センター

目的	岩手県宮古市重茂地区において、フロンガス規制への適合化を図るため、鮮度保持施設について、省エネ型自然冷媒設備、防熱扉、冷媒配管等の施設改築により、環境に配慮した加工品の保管を実現するとともに、鮮度維持と衛生管理の強化が図られ、シェア拡大による新規顧客の増加、流出顧客の減少、単価の向上や漁家経営の安定化による地域水産業の競争力を強化するものである。				
目標	養殖わかめ、養殖こんぶ、天然わかめの年間保管（買取）数量を現状から115t増大させ、競争力の強化を図る。	岩手県-001			
事業実施主体	重茂漁業協同組合				
実施地区	岩手県宮古市重茂第7地割29番地、30番地、31番地地内				
実施期間及び目標年度	実施期間	目標年度			
	令和5年度	令和6年度			
助成金額	80,750,000円				
事業計画の内容	鮮度保持施設の整備				
評価結果	取組の目標(KPI)	漁業所得（岩手県宮古市重茂地区における養殖漁業、採海藻漁業の水揚）の向上			
		基準年	(令和3年度) 1,394千円		
		現状値	(令和6年度末時点) 1,528千円	増加率	10%
		目標値	(令和6年度) 1,934千円	増加率	39%
	成果目標	鮮度保持施設の整備による養殖わかめ、養殖こんぶ、天然わかめの年間保管（買取）数量の増大を図る。			
		現状値	(令和6年度末時点) 1,076トン/年		
		目標値	(令和6年度末) 1,130トン/年		
	(1)現状値の説明	令和6年2月に発生した強風・波浪による養殖こんぶの脱落等により減産となったため、年間保管（買取）数量の目標値に対する現状値は、95%にとどまった。 養殖わかめ等は、漁業者が生出荷したものを漁協が一次加工（塩蔵）して本施設等で保管及び二次加工のうえ周年販売するほか、生産状況に応じて漁業者が一次加工（塩蔵）したものを漁協が集荷して本施設等で保管して周年販売に向けている。漁業者による一次加工品まで含めた場合は、現状値1,252トン/年（目標値比111%）であり、本施設は適正に活用されている。 ※漁協が買取しない分は、入札により業者に販売			
	(2)地域への経済効果	養殖漁業生産量の回復・向上、漁業担い手の確保・育成、水産物の付加価値向上及び漁業所得の向上に寄与している。			
	(3)所見	今回整備した鮮度保持施設を活用し、生産者から買上げたわかめ、こんぶを高鮮度、衛生的に保管することで、漁家の収益拡大につながった。			
(4)評価機関の意見等					
今後の改善方法等に関する分析	改良種苗の導入や水温・栄養塩情報の適正配信等により、養殖生産量の増大に取り組み、本施設での年間保管（買取）数量の増大、並びに漁家経営の収益拡大を図る。				